

2年●組 学級活動学習指導案

授業者 ●● ●●

1 取り上げる人権課題 「高齢者」

2 取り上げた人権課題の背景と現状

日本の現状は、平均寿命の大幅な伸び(男性 80.98 歳, 女性 87.14 歳 2017 年 7 月 厚生労働省発表)や少子化等を背景として、人口の約 4 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となっている。こうした現状に対応するために、平成 7 年 12 月には、「高齢社会対策基本法」が施行され、翌年 7 月、同法を受けて「高齢社会対策大綱」を作成された。また、高齢者の尊厳の保持にとって高齢者虐待を防止することが重要であることから、平成 18 年 4 月には、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され、法整備が進んでいる。しかし、高齢者に対する就職差別や介護者による心理的・身体的虐待、高齢者の家族等が本人に無断で財産を処分してしまう経済的虐待といった人権問題が大きな社会問題となっている。こうした問題は、「高齢者だから何もできない。」や「高齢者だからいいだろう。」という差別的な見方・考え方が原因だと考えられる。そこで、高齢者の人権を擁護するためには、こうした差別的な見方・考え方をするのではなく、高齢者と共生していこうとする見方・考え方が大切であると考ええる。

3 児童の実態

高齢者に対する差別的な言動を生み出す上記のような意識を視点として、児童の学校生活の様子を観察すると「○○さんは、～ができないから可哀想だな。だから、手伝ってあげよう。」「～ができないのは、どうして。」などと、仲間に対して自己中心的で決め付けた見方・考え方をしていることが分かった。そこで、高齢者に対して、どのような意識をもっているのか、実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

【アンケート調査等から捉えた本学級の実態】

高齢者に対するアンケート	はい	いいえ
・あなたには、お爺ちゃんやお婆ちゃんがいる。	29人	0人
・あなたは、お爺ちゃんやお婆ちゃんと一緒に住んでいる。	5人	24人
・あなたは、お爺ちゃんやお婆ちゃんが好きである。	29人	0人
・お爺ちゃんやお婆ちゃんに対して、可哀想だと思うことがある。	12人	17人
・家に近くには、お年寄りが住んでいる。	16人	13人

今後、年齢にとらわれず、異年齢の人々と共生していくことができる社会の担い手を育成するために、相手の立場に立って物事を考えながら生活する大切さについて考えようとする意識を高めたい。

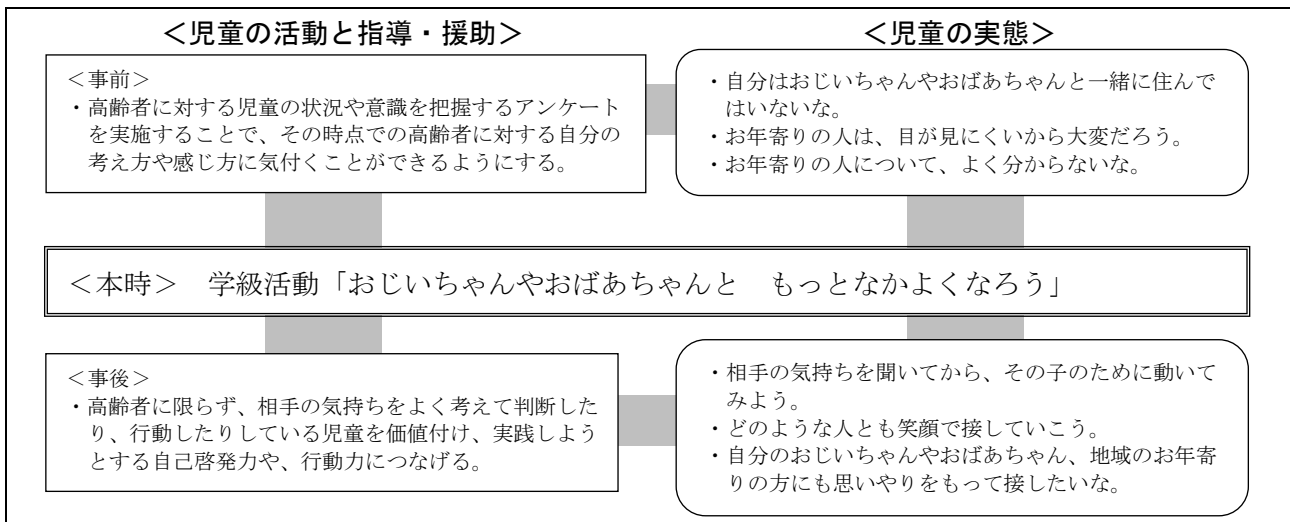
4 人権教育の育てたい3つの力の明確化

自己啓発力	自分の言動が高齢者に対して、自己中心的で差別的であることに気付き、高齢者の困り感を理解すると共に、高齢者と共により良く過ごすために、高齢者の立場に立って物事を考えようとする力
--------------	---

【指導改善の手立て】

- ・具体的な場면을提示し、ロールプレイング(役割演技・動作化)を取り入れることで、差別事象を自分と関わらせながら捉えられるようにし、自分の言動が自己中心的で差別的であることに気付かせる。
- ・差別事象に対して切実感をもたせるために、「自分だったらどう。」「自分だったらどうする。」などと、児童に問いかけ、自分と関わらせながら差別的な見方・考え方について考えさせる。
- ・「確かにする場」や「学習成立を見届ける場」での自分の見方・考え方を、つかむ段階での自分の見方・考え方をつなげることで、自分の見方・考え方の変容に気付かせる。

5 事前・本時・事後の指導構想



6 本時の目標

高齢者と関わる具体的な場면을ロールプレイングする活動を通して、高齢者に対する差別意識が、自分の何気ない言動につながっていることに気づき、高齢者の困り感のある場合や事象を理解した上で、高齢者の立場に立って考え、思いやりの心をもって接しようとする態度を育てる。

7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助
つかむ	<p>1 提示された高齢者の写真から、自身の祖父母に対するイメージを共有し、課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも優しくしてくれるよ。 ・一緒に遊んでくれるよ。 ・ゲームや玩具を買ってくれるよ。 <p>自分のために色々なことをしてくれるお爺ちゃんやお婆ちゃんと、もっと仲良くなりたいな。</p> <p>おとしよりのかたと、もっとなかよくなるためには、どうしたらいいのかかんがえよう。</p>	<p>◇自身の祖父母を想起し、高齢者に対するイメージをもっているか。(つぶやき・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の写真を提示し、自身の祖父母を想起させ、お爺ちゃんやお婆ちゃんは、自分(孫)のことを優先的に考えていることに気付かせる。 <p>◇ロールプレイングを通して、問題場面を自分のこととして捉え、高齢者に対する言動について考えることができるか。(活動内容・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題場面についてスライドを用いて具体的に説明し、自分ごととして捉えることができるようにする。
学び合う	<p>2 提示された場面のロールプレイングを通して、高齢者に対する自分の言動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量限定のゲームの発売日です。 ・早く列に並ばないと購入できません。 ・お爺ちゃん(お婆ちゃん)と買いに行くことになりました。 ・早くしてよ。早くしないと売り切れちゃうよ。 ・遅いよ。遅いから、先に行くよ。 <p>3 高齢者の歩行に関する資料から、高齢者の困り感について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り(お爺ちゃんやお婆ちゃん)の歩く速さは、大人や子供の半分ぐらいの速さです。 ・お年寄り(お爺ちゃんやお婆ちゃん)は、大人や子供と比べて疲れやすいです。 ・速く歩くことは難しいみたいだ。でも、ゆっくりと歩くことはできそうだ。 ・速く歩きたくても、速く歩くことができないみたいだ。 	<p>◇高齢者の歩行に関する資料を基に、高齢者の困り感について考えているか。(つぶやき・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の運動能力は、自分たちとは異なることに気付かせる。
確かにする	<p>4 ロールプレイングでの高齢者に対する言動について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっきは、「早く、早く。」と言ってしまったけど、それは難しいことだから、言わないようにしたいです。 ・自分勝手なことを言ってしまって「ごめんなさい。」という気持ちです。 ・自分の言ったことがお爺ちゃん(お婆ちゃん)を、とても困らせていたかもしれない。 <p>自分のことだけを考えるのではなく、高齢者(お爺ちゃんやお婆ちゃん)が困っていることを考えることが大切だな。</p>	<p>【人権教育の観点】</p> <p>自分の言動が自己中心的で差別的であることに気づき、高齢者の困り感を理解し、高齢者と共により良く過ごすために、相手の立場に立って物事を考える態度を育む。(自己啓発力)</p> <p><そのための手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなは、お爺ちゃんやお婆ちゃんに対して、どう接していた。」と、問いかけ、高齢者の困り感をつなげてロールプレイング時の高齢者に対する自分の言動について振り返ることができるようにする。
できる	<p>5 ロールプレイングでの高齢者に対する関わり方の実践策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早く、早く。」ではなく、「ゆっくりでいいよ。」と声をかけます。 ・高齢者(お爺ちゃんやお婆ちゃん)の歩く速さに合わせて歩きます。 ・いつも優しくしてくれるから「ありがとう。」を言いたいです。 <p>6 手押し車を押している高齢者が歩道を歩いているという高齢者と関わる新たな場面を提示し、実践策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お婆さんが手押し車を押しながら、狭い歩道をゆっくり歩いています。 ・あなたは自転車に乗って公園に向かう途中です。 ・その歩道を通ると公園まで早く行くことができます。 ・追い抜くのは危ないので、お婆さんの歩く速さに合わせて自転車を押します。 	<p>【評価規準】</p> <p>◇高齢者の困り感を理解し、高齢者への関わり方を高齢者の立場に立って考えることができる。</p>